

〔御厨子黒棚三莊之卷〕御厨子道具

一手箱 一大短冊箱 一小短冊箱 一色紙箱 一大文箱 一水引箱

一沈箱 一硯箱 一料紙文鎮 一香盆 一香爐 一火とり

一焼から入 一香爐火筋 一炭圍箱

〔乳母の草子〕おはしまさん所のさまいかほどもじんじやうに、御づしのたな三ぢうのちがひ棚御をきものかゝやくやうに御沙汰候べし。

〔續日本後紀仁十九〕嘉祥二年十月癸卯、嵯峨太皇太后○藤原遣使奉賀天皇卅寶算也、其獻物黒漆平文厨子十基○盛彩帛中略黒漆厨子六前○盛御菜中略黒漆厨子卅基廿盛菓子唐餅

〔大安寺伽藍縁起并流記資財帳〕合厨子玖合佛物二合小法物

〔古今著聞集偷盜十二〕博雅三位の家に盗人入りたりけり、三品板敷の下ににげかくれにけり、盗人歸りさて後はひ出て、家中を見るに、残たる物なく、みな取てけり、筆策一を置物厨子に残したりけるを○下略

〔古今著聞集草木十九〕天曆七年十月十八日、殿上の侍臣左右をわかちて、をのく、殘菊を奉りけり、中略侍臣に仰て御筆を奉る、これよりさきに、御座の南の邊に、置物御厨子一脚をたて、くだんの御筆ををきまうけたり、

〔源氏物語帯木二〕御とのゐ所も、れいよりはのどやかなる心ちするに、おほとなぶらちかくて、ふみどもなどみ給ついでに、ちかきみづしなる、色々のかみなるふみどもをひきいで、中將わりな

くゆかしがれば、○下略

〔枕草子八〕いやしげなる物

やり戸づし、何もゐなかものはいやしきなり、